



いのちのきずな

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

13号
2013年11・12月号

2013年(平成25年)11月1日

●編集・発行
いのちきずな編集委員会
編集長 川井信良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸 気付
電話 0422-60-2211
FAX 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100年実行委員会
NPO 法人みかた都市観光協会
武蔵野市観光推進機構

●制作支援
株式会社文伸 / ぶんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで

井の頭
吉祥寺
三鷹

INFORMATION 2013年11月～2014年1月

井の頭自然文化園

●「御殿山鹿倶楽部——シカを知る」開催中!
動物としてのシカはもちろんのこと、シカと日本人の関係をさまざまな側面から紹介し、最後はシカと私たちの間で起こっている問題について知り、考える内容です。
2013年12月28日(土)まで 場所: 動物園(本園) 資料館1階

新しい年を迎えるにあたって、楽しいイベントが盛りだくさん。

●新春 園長どうぶつえんガイド
園長の新春スペシャルガイドツアーです。
日時: 2014年1月2日(木)、3日(金) 各日 11:30～12:00
場所: 井の頭自然文化園 正門入口

●新春くるみくじ
ニホンリスの食べたクルミの殻を使って、くるみくじをおこないます。
日時: 2014年1月2日(木)、3日(金) 各日 12:00～
※先着 100名
場所: 井の頭自然文化園 正門入口

●「琉神」による琉球獅子舞
オリエンタル文化を受け継いだ琉球獅子舞。迫力ある演舞をお楽しみください
日時: 2014年1月2日(木) 11:00～、13:00～(各回20分程度)
場所: 井の頭自然文化園 正門入って正面のあずまや

★飼育係のいきものガイド
飼育係が担当動物についてお話しします。担当する飼育係しか知らない動物の特徴やエピソードを聞くことができるかも?
実施日: 毎週日曜日 場所・時間: 実施する場所と時間は毎回異なります。お問い合わせください。

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html

井の頭恩賜公園

ネイチャー☆プログラム

ネイチャー☆プログラムとは…次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- あおぞら実験室(井の頭池付近) 11月3日(日)、12月1日(日)
- グリーンバード(井の頭池付近) 11月10日(日)、11月24日(日)、12月8日(日)、12月22日(日)
- どんぐり広場(御殿山広場) 11月21日(木)、12月12日(木)
- ツリー☆マジック(第二公園) 11月30日(土)、12月23日(月・祝)

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.i-np.jp/index.html

井の頭かんさつ会

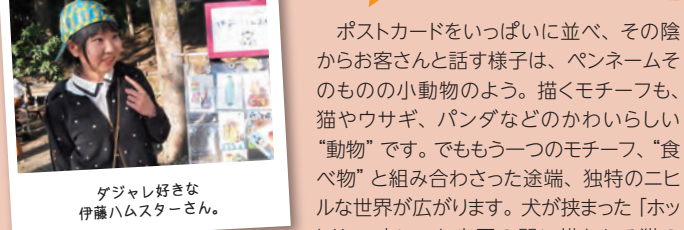
- 第103回「種(たね)」 11月23日(土) 10:00～12:00
- 第104回「冬の星」 12月21日(土) 夕方～夜(時刻未定)

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP http://www.kansatsukai.net/ に載せます。



アートマーケットと ファンアーティストな人々

伊藤ハムスターさん(イラストレーター)



ゲジャレ好きな伊藤ハムスターさん。

「にやたいもり」。伊藤ハムスターさんは「ダジャレが好きでして」と笑います。
2009年、イラストレーターになると同時に、井の頭公園に出店。書籍や雑誌のイラストを手がけるようになった今でも、他にはない“動物×食べ物”を楽しむに、ファンが公園に通います。カードを入れる封筒には、リクエストのあった“動物×食べ物”をその場で描いてプレゼント。出店仲間の手ぬぐい作家「ともぞう本舗」と、「ウサギ×お寿司」の手ぬぐいも作り、「井の頭公園」ならではの、異業種コラボが楽しかった」と話します。

小田原 澪 (おだわら みお)
編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

アートマーケットは、主に土日祝日に開催しています。特例で24日(火) 25日(水)は開催します。年末の28日(土) 29日(日)はお休みとなります。

今月の はな子

サポーターズデーのはな子
動物園には、動物園サポーター制度があり、サポーターの皆様から頂いた資金で、動物園や動物たちの展示を改善しています。
サポーターの皆様を、年に一度お招きして、特別ガイド等で感謝の気持ちをお伝えするのがサポーターズデーです。動物種ごとに応援する対象を指定する事ができるのですが、やはり当園でははな子が一番人気で、多くの方から資金を寄せられます。今年度ははな子の室内をいつでもご覧いただけるモニターを設置させていただいたことで、そのお披露目をし、特別なおやつとして、イチゴやカキなどのフルーツと特製のはな子パンを皆さんの前でプレゼントしました。いつもと違う時間に豪華なおやつをもらって最初はとまどっていたはな子も、つまんでみたイチゴのおいしさに目を細めてあっという間に平らげて満足そうでした。

井の頭自然文化園 飼育展示係長 山本藤生



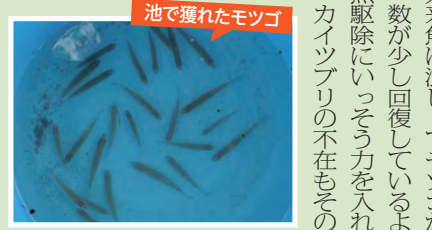
井の頭公園の生き物たち



夜が本番

七井橋吉祥寺側の脇にある小島のハンノキなどの茂みは「ゴイサギ藪」と呼ばれています。いつもこの鳥が何羽か止まっているからです。とくに冬には数が増えます。成鳥は頭の上と背中が濃い青灰色で、翼が灰色、胸は白、頭には白く細い冠羽があります。全長58cmと図鑑に書かれていますが、全長は首を伸ばして測るのでご注意ください。なお、全身が焦げ茶色で白い斑点のあるサギが混じっていることがあり、別種だと思ふ人がいますが、「ホシゴイ」とも呼ばれるゴイサギの若鳥です。

「いのけん」講座 答え合わせ
問題1 樽、ヒノキ
問題2 コガモ、小鴨
コガモが来なくなったのは、用心深いコガモが休息や採食をするのに適した場所が無くなったからです。



池で獲れたモツゴ

井の頭かんさつ会 田中 利秋 http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/

日中彼らが藪で休んでいるのは、夜行性だからです。日が落ちすっかり暗くなるころ次々に飛び立ち、「グワッ、グワッ」という大声を発しながら池の畔や神田川へ採食に向かいます。そのちょっと不気味な声は近くの住宅地からも聞こえます。水際で身じろぎせずに水面を凝視し、気づかずに寄ってきた魚を、普段は縮めている首を一気に伸ばして、それでも足りなければ水に飛び込んで、くわえ捕ります。左の写真は夜に浅瀬で魚を待っているところです。魚のほか、エビ類や両生類(カエルやオタマジャクシ)なども食べます。彼らがゴイサギ藪に戻ってくるのは明け方近く。単独で、あるいは何羽かまとまって飛んできますが、このときは鳴きません。

昼間に採食することもあるので、運が良いか辛抱強ければ、魚を捕るのを見ることが出来ます。大きなブルーギルを捕まえ、苦勞して呑み込むのを見ることがあります。しかし、たいていの人は時間がかる待ちの漁に付き合いきれず、見るのを途中で諦めてしまいます。これまで会った中でゴイサギよりも辛抱強かった人はただ一人、ひたすら待ち構えてゴイサギが魚を捕る瞬間をみごとに捉えたカメラ女史だけでした。

この冬はかいぼりが行われるため、井の頭池は弁天池を除き干上がりります。神田川は、地下水を供給するので、水量は保たれます。水辺に依存して生活するゴイサギがどうするのか注目です。



ゴイサギ若鳥

13 楽園はよみがえるか!

私がカイツブリを最後に見たのは8月28日、その後は目撃情報ありません。例年晩秋に冬越しの個体が出てくるのでまだ可能性はありますが、この冬は池のいかいぼりです。カイツブリの姿が見られない期間が長く続きます。

かいぼりが終わっても、在来的小魚やエビが増えないとカイツブリは定住できません。彼らの餌の筆頭はモツゴ(クチボソ)です。その絶滅を防ぎ、かいぼり後の池に放流するため、我々はひょうたん池の「いけす」でモツゴを保護・増殖しています。ところが、今年の7月ごろから、池でも外来魚に混じってモツゴが網に入るようになりました。数が少し回復しているようです。昨年来我々が外来魚駆除にいっそう力を入れた結果だと考えていますが、カイツブリの不在もその一因かもしれません。モツゴにとっては、オオクチバスほどではないものの、カイツブリも立派な天敵です。井の頭池を良い池に戻すためには、人もカイツブリも辛抱が必

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。



写真 古賀 親宗 (こが もとのり)
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。『いのきちさん』は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の三「さん」を並べたものです。(奇数月1日の隔月発行です)



「いのきちさん」のホームページができました！更新中！

<http://www.inokichisan.com/>



スマートフォン対応

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。

✉ inokichi@bun-shin.co.jp

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。



武蔵野の水と自然。
脈々と語り継ぎ、行動しよう！



▲ 1985年～1988年
ヘドロ除去の工事で水を
全部抜いたところ。

水質の悪化や外来生物の激増が大きな問題になっている井の頭池では、近年、「エサやり自園」が広められ、さらに平成26年1～3月には、池の生態系の回復を目指し、外来生物の駆除や水草の植え付けなどをする「かいぼり」が予定されています。
今回は、池の水について俯瞰してみよう。



文政8(1825)年の「東都近郊図」

国木田独歩が『武蔵野』(明治34/1901年発行)の冒頭で引用している文政8(1825)年の『東都近郊図』を見ると、多摩川、荒川、隅田川、江戸川などの東京と近郊の川が、それぞれに合流や分岐をしながら東京湾に注いでいく道筋が一目で見え取れます。

『武蔵野』は、ロシアの秋の光景を描いたツルゲーネフに憧憬した著者が、武蔵野の自然の美しさを写実したエッセイで、風景と人の営みについて示唆に富んだ考察が綴られています。現在の自然環境と比較して読むと、百数十年の間に私たちが失ったものの大きさをあらためて感じます。

『東都近郊図』の中央やや左には、上から三ツ寺池、善福寺池、妙正寺池、井の頭池、丸池が並んでいるのを見て取れます。いずれも武蔵野台地の東端で土地が急に低くなる標高50メートル程度の地点で、ローム層の下に広がる砂礫層にたまった地下水が地表に湧いてきた池です。

1960年代以降に水量が減り、水質が悪化したのはいずれの池も同じです。その原因は、都市化によって雑木林や農地が減り、アスファルトで覆われた土地が増え、多くの雨水が道の側溝を通じて下水に流れてしまふようになり、地中に染みこむ雨水が激減したことです。

井の頭池は、1962年から4回も水が枯れ、現在も一日約4千トンの地下水がポンプで汲み上げられて供給されています。雨水を地下に染み込ませるために、三鷹市でも武蔵野市でも公共・民間の施設や住宅などへの「雨水浸透ます」の設置を推進しています。さらに水脈を豊かにしていくために何ができるのか。百年後の景色を想像し、個人として、また職業人としてできることをみんなで探っていきたいと切に願います。

安田知代

私と井の頭公園 その13

「やっぱりデザイナーが常駐していいよね」

北村 直子 (杉並区在住)

今から5・6年前頃から、井の頭自然文化園のポスターやリーフレット・企画展示がガラッと変わった。わくわくするセンスあるデザインに変わった。それは、陶芸家でデザイナーの北村直子さんの登場によるものだった。あの『いのけん』のロゴやバッジも彼女の作品だ。

焼き物の作家をしていたのですが、友達に、井の頭自然文化園でアルバイトをしないかと誘われたのです。ツシマヤマネコの企画展のパネルやパンフレットなどをデザインする仕事でした。ちょうど有田の窯元で焼き物の修行が決まった頃で、現地に行くまでの間ならお手伝いことにはたのびます。制作は動物園事務所に常駐して、みんなでわいわい言いながら作ったのですが、これが新鮮で楽しかったんです。上司からも、「やっぱりデザイナーが常駐しているといいよね」と言われて、欧米では動物園専属のデザイナーがいることも知りました。その上司から、もう少し手伝ってくれないかと誘われたので、有田行きを少し伸ばして、次のお手伝いをしたのですが、結局そのまますると6年間、今に至っています。有田の窯元にはすみません(笑)。

井の頭自然文化園のいいところは、動物園なんだけど動物園らしくないところです。動物も象のはな子以外は地味な動物ばかり(笑) なんだけど、他の園には無い、ゆるやかな時間の流れを感じるんですよ。お客さまもマナーを守って目が肥えていて、これも他の園に無い良いところ。そういうところが魅力的で、そこで表現できる楽しさがあるから続けているのでしょね。でも、動物園や動物にのめり込まないようにしているんです。ちょっと距離を置いていた方がいいと。なんとなくいいデザインがでなくなるように思うのです。いまだにアルバイトでも良しとしていることも、安定からくる緩みを危惧するからかもしれません。

(井の頭自然文化園
専属デザイナー・きたむらなわこ)

(聞き手・写真 川井信良)



デザインした『いきもの広場』の看板の前で

▼「KAIBORI News」は公園内の掲示板で閲覧できるほか、「井の頭恩賜公園100年実行委員会」のWEBサイトでダウンロードできます。



「かいぼり」の実践、
いよいよスタート！

来年1～3月に予定されている「かいぼり」は、大勢の市民や地域の方とともに実施できるように取組むためのしくみづくりが進められており、10月にはボランティアリーダー「井の頭かいぼり隊」の募集が行われました。応募された方々は、これから実技を含む6日間の講習を受け、必要な技術や知識を身につけます。

そして「井の頭かいぼり隊」のリーダーと一緒に、水を抜いた池で魚を捕ったり陸上で運搬や記録、分類等の作業をしたりする1日限定のボランティア「おさかなレスキュー隊」の募集も11月の下旬から12月に告知される予定です。

池底を一旦干して水質改善を図る「かいぼり」は、池の現状を知るまたとない機会であり、きれいな水を復活させるための歴史に残る重要な実験でもあります。

ボランティアの募集を含む「かいぼり」に関する情報は、「KAIBORI News」に掲載されます。要チェックですよ！

『いのけん』(井の頭公園検定)講座

()の中の文字を書きなさい。

- 問題1 井の頭恩賜公園内に設置してある『思い出ベンチ』の木材は東京・多摩産の()を使用している。
- 問題2 井の頭自然文化園では毎年1月に井の頭池のカモの数を調べていますが、1960年代に500羽も来ていたのに今はほとんど来なくなったカモは()です。

答えは裏の面に
あります。